

## あ・ら・か・わ

### 荒川（埼玉県）

我が家の近くに流れている「川」といえば、奥秩父を源流とする埼玉県から東京湾までの173kmを流れる一級河川、荒川である。尚、アメリカ合衆国・ワシントンD.C.にポトマックという姉妹川を持つ。都市近辺を流れるこの川は、護岸整備が十分に施された今でも、水辺には鳥達も羽を休める事ができ、草花も



咲き、都民の憩いの散策の場として人と環境の調和を可能にする架け橋となっている。高層ビルやコンクリート・ジャングルと化した都会の片隅には形を変えた「新しい」自然が在る。適切に管理されている荒川は、とても穏やかで、都民に愛されている幸せな「川」である。

私が留学中に引越しがあり、帰国し新しい家に着いてみると、ベランダの外には小名木川というとても小さな人工河川があり、それは旧中川と合流し、後に『3年B組金八先生』でおなじみの荒川へと流れ込むのである。いつも側にあるこの川と特にふれあった事はなく、ただ見下ろすだけであったが、これを機に、最近完成したばかりの小名木川の遊歩道に行こうと考える。

終戦まもなくカスリーン台風により荒川流域はとても大きな被害を受け、ダム

が建設され洪水調節が成されたにも関わらず、その後、記録的な渇水に見舞われた。昭和 40 年頃、隅田川（昔の荒川の下流部は現在の隅田川です）の水質汚濁が深刻化した結果、メタンガスの湧き出る河川と化し、早慶ガレッタまでもが中止に追い込まれた。これらを解決すべく、昭和 43 年から利根大堰による導水が行われ、上水道供給と水質改善を図った。また上流部に滝沢ダム・浦山ダム・有間ダム・合角ダムを建設し洪水調節や上水道を確保し、笹目橋上流に荒川調整池を建設して緊急時の洪水調節を行った。（Wikipedia）

荒川下流河川事務所のホームページには、あらかじめ告知版といった川周辺で行われるイベントの紹介や、水位データ及び火災掲示板や、事務局が取り組んでいる対策等がトップページに記されている。その他のリンク集には、各市区のハザードマップや浸水測定区域図などがある。この中で最も私が興味を持ったのは、脇に小さくある「荒川の知ってるつもり？」という区民の川に対する認識度を現しているグラフである。これには自身も問われている質問に対して、知っているか、否かを選択する事が可能である。過去の投票結果を見ても各質問に対して、「知らない」と答えたものが 7 割近いことから、区民の川への認識がまだ低いという事は明白である。下流河川事務所のホームページとは別に、上流河川事務所のホームページが存在する事からも荒川がどれだけ大きく、また沢山の人々によって支えられているかが伺える。（ARA）

これらのホームページは国土交通省によって作成されたものだが、他にも荒川をこよなく愛する人々が作ったホームページもここで紹介する。『荒川の釣り与自然』というサイトでは、荒川のほとりに 40 年以上も住んでいる人が語る荒川の歴史や話題を政府とは異なる視点から伝えている。このホームページの製作

者は荒川下流部での釣りを好むらしく、特に鯉釣りの色々な方法やアドバイス等がとても詳しく記されている。

私達の生活に「川」は必要不可欠な存在である。因って、川と丁寧に接する事はとても大切で、その周辺に住む私達にとってプラスになるのである。近い将来、東京湾近辺で大地震が発生すると予測されているが、関東大震災のような未曾有の大惨事の際には、東京湾に隣立するコンビナートから流れ込んだ原油が川にも大きな影響を及ぼすのは言うまでもない。水中の生命体は汚染等によって失われ、水が生活の一部としてある事が当たり前の日本人は、この急変化に戸惑いや不便さを感じるだろう。川が汚染されてから対策を練るのでは遅いのである。それ以前に、一刻も早く川周辺の改修工事が望ましいのではないかと考える。

今以上に私達一人ひとりが公衆道徳を守る事によって川は喜び、幸せに長生きをするであろう。形を変えてしまった今でも四季の移り変わりを教えてくれる川の周りがある自然を大切にしたいと考える。

#### Reference

荒川の釣り と 自然 : <http://www.arakawa-river.net/>

Wikipedia 「荒川 (関東)」 :

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8D%92%E5%B7%9D\\_\(%E9%96%A2%E6%9D%B1\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%8D%92%E5%B7%9D_(%E9%96%A2%E6%9D%B1))

荒川下流河川事務所 : <http://www.ara.go.jp/arage/>

NO 公開